

御幸まち協だよりミニ版(N02)

平成 28 年 10 月 1 日

御幸地区まちづくり協議会

(略記：御幸まち協)

皆さん、今年の夏は本当に暑かったですが、無事乗り切ることができましたか？

さて、10月に入り収穫の喜びとともに、食欲の秋本番を迎えますが、一方でまだまだ台風がやってくる季節でもあります。統計的には、7～9月に比べると上陸数は少ないですが、安心はできません。そこで、今回のミニ版テーマは御幸地区の防災・減災について考えてみました。



1) 自主防災会から

御幸地区自主防災会も歴史を積み重ねて今年で9年目を迎えました。設立以来これまで大きな災害や被害に遭うこともなく過ごしてきました。しかし、今年の熊本地震にはじまり、北海道・東北の台風被害をテレビや新聞報道で見ていると、決して対岸の火事では済まされません。熊本には地震が起こらないと多くの方が信じていました。また、北海道には台風が余りやって来ないと誰もが思っていました。しかし現実、大災害が起こりました。

最近の異常気象は気候変動によるもので、地球温暖化がその要因の一つとも言われています。自然災害は避けて通ることのできないものですが、私たちの日ごろの備えや心構え一つで大切な命を自ら守り、そして被害を最小限に食い止めることができるのではないのでしょうか。「自助」・「共助」・「公助」という言葉がありますが、遅まきながらも私たち一人ひとりには「自助」について、また、自主防災会では「共助」について、市役所等では「公助」についてそれぞれの立場でしっかり考えることが、防災・減災の考え方なのです。

用語解説

「自助」

「自分の命は自分で守る」。全ての方が自分の身を守るために全力を尽くさなければなりません。まず、自分がケガをせずに生き残ることが基本です。

「共助」

ケガをせず生き残ったら、「家族と近所の人たちと助け合う」「地域の安全はみんなで守る」。自主防災組織のような地域コミュニティを中心とした単位で、助け合いましょう。

「公助」

「国や自治体、防災機関などによる救助・災害支援活動」。災害の規模が大きくなるほど公助による住民への迅速な援助は期待できません。効果的な公助の展開には発災後1週間はかかると考えておく必要があります。

2) 災害に対する事前の備えで減災へ

亀山市から各家庭に配布されている「亀山市 防災マップ 洪水ハザードマップ」を開けて日ごろの備えを家族全員で見直してください。例えば、道路が冠水して車が動かない、停電になった、ガスが止まった、水が止まった、けが人や急病人がでた、家族と連絡が取れない、等々。

「私の住んでいる場所は大丈夫！だから、“災害対策”“私は関係ない”は根拠のない過信です。

いざという時に助けになるには「遠くの親戚より隣の他人」と言われています。隣近所との助け合いが最も重要です。日ごろ、隣近所で防災について話し合っておきましょう。

3) 御幸地区を守る防災設備の紹介

設備名：東御幸排水ひ管（鈴鹿川から竜川への逆流を防止するために設けられた樋門）

亀山市が樋門の管理を三重県国道事務所河川管理課より委託されています。樋門の作動は亀山市の担当者が鈴鹿川と竜川の水位を見極めながら、鈴鹿川から竜川へ逆流していることを確認した時に閉門します。



樋門建屋外観



ゲート



室内ゲート昇降装置

【近年のゲート閉門実績】

年 度	H23	H24	H25	H26	H27	H28※
閉門回数	1	2	1	1	1	0

※H28年は9月15日
までの記録

このように毎年1回以上樋門の閉門が発生しています。今後10年に1回、20年に1回の集中豪雨は亀山にも発生する可能性があります。実際、昭和49年には御幸地区は床上浸水をはじめとする大きな洪水被害に見舞われました。（下写真）



▲現商工会館西側付近の様子



▲三笠屋旅館から駅へ通じる高架橋付近の様子

当時の様子をご存じでない方も多いと思いますが、実際に経験した方にその時の状況を聞いてみると、伊勢湾台風並みだったと実感することができました。このような災害が再発することを想定して各ご家庭でも防災対策についてしっかりと取り組む必要があります。

以上